

## 中央鉱山保安協議会 議事要旨

1. 日 時：平成30年2月1日（木）13：30～15：30

2. 場 所：経済産業省別館3階310会議室

3. 出席者：

（学識経験者代表）

山富委員（会長）、五十嵐委員、田中委員、所委員、福井委員、松岡委員、吉本委員

（鉱業権者代表）

安藤委員、井上委員、江口委員、川口委員（代理：清水氏）、下田委員、吉澤委員

（鉱山労働者代表）

嵐委員、上野委員、宇佐美委員、古谷委員、宮川委員

4. 議題：

【審議事項】

- （1）第13次鉱業労働災害防止計画（案）について
- （2）鉱山保安法施行規則等の一部改正（案）について

【報告事項】

- （3）「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針(第5次基本方針)」の中間レビューについて
- （4）石炭じん肺訴訟の現状について
- （5）産業保安法令手続きの電子申請について
- （6）平成30年度鉱山保安関係予算案について

5. 議事概要

（1）第13次鉱業労働災害防止計画（案）について

- 事務局から、労働安全衛生法の規定に基づき、中央鉱山保安協議会の意見を聞くため、第13次鉱業労働災害防止計画の策定について説明が行われ、承諾を得た。

（委員からの主な意見）

- 国、鉱業関係団体等の連携・協働による保安確保の取組において、鉱山保安推進協議会で表彰式や保安管理マスター制度を実施し、保安力の向上に寄与している。13次計画でも言及されており、今後も保安管理マスター制度の試験テキストの見直しを行うなど、強力に推進していきたい。
- 若手作業員に関する災害や、中小零細鉱山における災害が多いという説明があり、その対策として挙げている、ドローンの活用やセンサーによる記録管理などテクノロジーを活用することは賛成。一方でこれらを活用するために、データ管理が重要になってくると思うが、中小零細鉱山が導入する際には教育が必要になると考える。また、収集したデータを解析し災害防止につながるPDCAが必要。

- 13次計画で掲げている目標値を、各鉱山の目標にどのように落とし込むのがよいか悩ましい。  
→(事務局) 各鉱山では、災害撲滅という方向に向けて、各鉱山の創意工夫をもって、最適な目標を考え取り組んでいただきたいと考えている。
- 13次計画の目標は定量的な指標となっているものの、それ以外の主要な対策事項が抽象的である。数値化は難しいと思うが、研修の回数など、もう少し目標を定量化できるよう工夫してはどうか。  
→(事務局) 国が定量的な目標を多く掲げすぎると目標達成が目的化してしまう恐れもあり、自主保安の考え方にも沿わないところがある。優良事例集の紹介をするなどの取組をしていきたいと考えている。
- 自主保安の体制になって以降、鉱山保安マネジメントシステムの導入・促進や保安管理マスター制度など様々な取り組みをしてもらっている。時間はかかると思うが、今後も着実に取り組みを進めていただきたい。

## (2) 鉱山保安法施行規則等の一部改正(案)について

- 事務局から、水銀及びカドミウム規制に関する他法令の改正に伴い、同様の規制を措置するため鉱山保安法施行規則等の改正について説明が行われ、承諾を得た。

## (3) 「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針(第5次基本方針)」の中間レビューについて

- 事務局から、第5次基本方針(金属鉱業等鉱害対策特別措置法に基づく特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針)の中間レビューの実施について説明した。

## (委員からの主な意見)

- 休廃止鉱山対策に対しては、まとまった対策を実施し長期的なコスト削減に対してオールジャパンで取り組んでいただきたい。また、長年蓄積されているデータの活用が重要。
- 義務者存在、義務者不存鉱山を比較すると、義務者不存鉱山への対策が進んでいない。技術者不足等の課題に対して、JOGMECが中心となって対策を進めていただきたい。

## (4) 石炭じん肺訴訟の現状について

- 事務局から、石炭じん肺訴訟の現状について説明した。

## (5) 産業保安法令手続きの電子申請について

- 事務局から、産業保安法令手続きの電子申請について検討状況を説明した。

## (6) 平成30年度鉱山保安関係予算案について

- 事務局から、平成30年度鉱山保安関係予算案について説明した。

問合せ先

経済産業省 産業保安グループ  
鉱山・火薬類監理官付  
電話：03-3501-1870  
FAX：03-3501-6565